

人権講演会「ネットトラブルから子どもを守るために」

1月17日の人権講演会は、ソーシャルメディア研究会の竹内義博さんのお話を聴きました。いくつかの要点をまとめてみました。



▲SNSでのトラブル…なぜおとなに相談しないのか？！

SNSに書き込んだ一言が、誤解を招いてラインのグループから外されたり、学校で無視されたりするいじめが多発している。無視されても先生や親には相談しない。子どもにしてみたら、おとなは何も知らないし、相談したら「暴走」する（相手の家に怒鳴り込みに行ったり、学校で学年集会を開いたり…）。相談するよりも、いじめのターゲットが自分以外の人に向くまでひたすら耐える方がまし、と考える。

▲出会い系アプリ、コミュニケーションアプリ…なぜ見知らぬ人の誘いに乗ってしまうのか？！

ツイッターなどのSNSに「死にたい」「家出したい」と書き込めば、瞬時に「話を聴くよ」とか「家に泊めてあげるよ」などの「優しい」返事が届く。しかも、「返事はDM（ダイレクトメッセージ）へ」と、他者から見えない形でやり取りをするケースが多い。

「なぜ見知らぬ人に簡単についていくのか」とおとなは疑問に感じるが、子どもにしてみたら会ったことがなくても、一回でもネットでやり取りをしたら「知り合い」「友だち」という感覚になるそうだ。ましてや、「優しい」返事が返ってきたら、「いい人」として警戒感がなくなり、誘いに乗ってしまう。

しかし、身近に相談できる人がいたらわざわざネットの知らない人に相談はしない。また、知らない人を信用してついていくということもないと思う。



▲子どもをネットトラブルから守るには

○機械的な対策…フィルタリング、スクリーンタイムの利用

フィルタリングをすると、いろいろなアプリが使えなくなるので使用しない、という人も多い。しかし、個別のアプリによってフィルタリングをかけたり、解除もできたりするので、子どもとのやり取りの中でおとなが判断すればよい。また、iPhoneではスクリーンタイムという機能があり、ゲームなどのアプリの休止時間が設定できる。

○人間的な対策

*子どもと一緒にスマホのルールを考える…購入時がベスト。購入時でなくても、入学、学年が上がるなどの節目に子どもと一緒にルールを考える。いったん決めたルールも定期的に見直すのがポイント。

*困った時におとなに相談できるように…

先述のように、身近に相談できる人がいたらわざわざネットの知らない人に相談はしない。また、知らない人を信用してついていくということもないと思う。というのが経験に裏打ちされた竹内さんの結論です。どのようなことを大切にしたらよいかを竹内さんの資料から引用しました。

親子でのコミュニケーション

- ①困ったら相談してほしいと伝える
- ②知っている人（ネットなどに詳しい人、相談窓口など）を知っていると伝える
- ③子どもの常識を知り、効果的に伝える（暴走しない）

(ポイント)

- ・日頃からネットやスマホのことを話し合ひましょう。
- ・日頃の声かけ（あいさつ、日常会話）が、困った時、保護者への相談につながります。
- ・親子ともに、ひとりで抱え込まないようにしましょう。
- ・本質はスマホなど機器やアプリの操作方法の問題ではありません。

→ 結局ネットトラブルの問題は心の問題であり、「自分を大切にすること・違いを認め合う・相手を思いやる・声かけ、あいさつ」という人間関係の本質を親子で確かめ合うことが、子どもを守ることに繋がるとしめくられました。

<参考> ネットトラブル相談窓口 ①警察相談専用電話 #9110 ②消費生活センター 188

③子どもの人権110番 0120-007-110

先生？警察？親？友達？	スマホ	ガラケー
第1位	友達	親
第2位	親	友達
第3位	警察	警察
第4位	先生	先生

おススメの本…今回は岡村芽玖先生の好きな本です

「おまえうまそうだな」ティラノサウルスシリーズ全14冊 宮西達也作（低学年向き）

恐竜界の暴れん坊、ティラノサウルスが主人公のシリーズです。一人ぼっちのアンキロサウルスの赤ちゃんが、ある日怖い怖いティラノサウルスに出会います。ティラノサウルスはよだれをたらしながら「ひひひひ…おまえ うまそうだな」と、アンキロサウルスにとびかかろうとしたそのとき、アンキロサウルスが言ったのは「たすけて〜」ではなく…???

愛にめざめたティラノサウルスの、あたたかさやせつなさがたっぷりの人気シリーズです。

